



# イチゴ

東金経済センター  
営農指導員 並木 佑輔

# 農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



# 夏ネギ

やさいの里営農センター  
営農指導員 中村 光佑



放飼1〜2カ月後くらいに、ハダニが発生した株と天敵を放飼した場所周辺の葉の裏を観察してみましよう。5〜10倍のルーペで観察すると、勢い良く動き回るオレンジ色やクリーム色のダニが天敵です。  
ハダニはあまり動きませんが、天敵はかなり速い速度で歩き回っています。天敵はハダニの周辺で活動するため、ハダニがいない場所では見つけにくいです(写真①、②参照)。

## ハダニ・天敵観察のポイント

近年、天敵(スパイデックス等)の利用によるハダニの防除が広まってきました。1月中旬〜2月下旬にかけて、天敵の放飼を行った生産者の方も多いのではないのでしょうか。  
3月以降は気温の上昇に伴い、ハダニが急激に増加します。一方で、天敵がうまく定着した圃場は、ハダニの広がりを抑えられているかと思われるかもしれません。ただし、ハダニの発生が確認される場合は、天敵だけに頼らず、天敵に影響の少ない殺ダニ剤で天敵のサポートをしてあげましよう(表参照)。

## 天敵利用によるハダニの防除

表① 天敵に影響の少ない殺ダニ剤

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
カネマイトフロアブル	1000 ~ 1500倍	収穫前日まで	1回
スターマイトフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ダニサラバフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内
ニッソラン水和剤	2000 ~ 3000倍	収穫前日まで	2回以内
マイトコーネフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内

## 春先(3月以降)の害虫防除

栽培期間の終盤を迎えるにあたり、アザミウマ等の防除も必要になります。害虫の発生が多く、実や葉に被害が確認された場合には、天敵に影響が強くても害虫に効果のある殺虫剤を使い、天敵防除から薬剤防除へ切り替えましよう。

トンネル内の最高気温が35℃を超えないように換気を行います。トンネル栽培では被覆後、トンネルの頂点に5〜6杯おきに6杯の穴を開けます。そして、徐々に換気穴を増やしていきます。  
2条トンネルでは、2月下旬〜3月上旬頃に側面の支柱の両肩にも換気穴を空けます。3月中旬ごろ(被覆除去の約1週間前)に側面の換気穴をつなげて、ネギをしっかりと外気温に馴らします(写真③)。また、小型

## トンネル栽培での温度管理

目標とする収穫時期に合わせて作別に品種選定します。5月どりは大型2条トンネル栽培、6月どりは小型トンネル栽培、7月どりは露地栽培が一般的です。大型2条トンネル栽培を行う場合、条間にマルチングと灌水チューブを入れることで、早期出荷を促すことができます。作型ごとの栽培暦および品種については表②を参照してください。

## 作型と品種

夏ネギはここ数年、単価が安定しており、特に5〜6月出荷は市場からも強い要望があることから、比較的収益性の高い品種です。

写真④

小型トンネル換気方法



写真③

大型トンネル換気方法



トンネルでも葉が天井に当たり始める3月中旬頃に頭上の解放換気を行います(写真④)。  
トンネル除去前の換気が不足すると「軟弱で倒伏しやすい」、「徒長気味で根張りが悪い」、「病害虫の発生が多い」、などデメリットが多くなります。必ず被覆除去前に十分な換気を行ってください。

1月の分析経過について	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析 合計2点 サトイモ ..... 1点 (ちばエコ) 葉玉ねぎ ..... 1点
	※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。
土壌診断点数 ..... 合計35点	



写真②  
スパイデックス  
(チリカブリダニ剤)

※写真提供: アリスタライフサイエンス(株)



写真①  
スパイカル  
(ミヤコカブリダニ剤)

表② 作型別栽培暦

作型	品種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
		上中下											
大型2条トンネル栽培	春扇	●		▲				n	V	V	V	■	
小型トンネル栽培	春扇 初夏扇(SK3-108) 羽緑一本太	●		▲				n	V	V	V	■	
無被覆	夏扇4号 夏扇パワー			●					V	V	V	V	■

●: 播種 ▲: 定植 V: 中耕、土寄せ、追肥 ■: 収穫 n: トンネル被覆

## 病害虫防除

トンネル除去後、気温の上昇に伴い病害虫の発生が多くなります。特に、アザミウマ類の食害は品質低下を招きますので、防除を徹底してください。